

令和2年度 事業報告

【入居者概要】

全入居者の平均年齢 85.6 歳、平均介護度 4.2 です。男性入居者が 3 名、女性入居者 22 名となっております。平均介護度は昨年と変化なく、全体的に重度化している状況は変わりませんが、認知症からの問題行動や、医療的管理を必要とする入居者はおらず、比較的落ち着いています。食事量が少なく、栄養補助食品等に頼らざるをえない方が昨年に比べ増加しましたが、本人の好みや生活パターン等を見直し入居時よりも食事量はアップしています。新型コロナウイルス感染予防から外出行事はできませんでしたが、施設内でできる料理会等で楽しんでいただく時間を作りました。

【入居者推移/利用料収入】

令和2年度の目標だった 29 床満床は実現できず、年度初め同様に 25 名までの受け入れで終わりました。入院者はいたものの昨年と同様の一日平均入居数 24.1 をキープできました。

【職員採用・退職状況/職員数推移（介護職・看護職）】

令和2年度は 9 名採用しましたが、退職者も 9 名で職員数に変化はありません。フルタイムの介護職員が 2 名退職したのも関わらず、採用は出来ず、パート職員が増加しており、マンパワーとしてはダウンしたと言わざるを得ない状況です。採用方法としては、ハローワーク、リビング熊本、マイダス、求人案内と 4 つの媒体を活用しましたが、期待するほどの結果は得られませんでした。令和元年度は新規採用職員が定着せず、1 年以内に退職する状況でしたが、令和2年度は 2 年以上勤務していた正職員が数名退職するという結果になりました。

【運営推進会議/入居判定会議】

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、本来 2 ヶ月に 1 回開催しなければいけないところ、1 度も開催することができませんでした。

外部委員 2 名に参加していただき、客観的かつ公正な視点から令和2年度は 2 回の入居判定会議を開催し、入居申込者 6 名の方の審議を行いました。

【避難訓練】

2 月 24 日総合訓練を実施。

【総括】

令和2年度は新型コロナウイルスにより、法人内外の活動が多岐にわたり制限された 1 年でした。当初予定していた計画も実施することはできず、職員、入居者及び家族には精神的な負担をかけたのではないかと思います。長い面会制限期間ではガラス越し面会、オンライン面会、施設からの手紙（写真と近況報告）を試みました。

職員採用では前述の通り、求人媒体をこれまでより活用するものの、満足いく結果にはならず、新たな採用方法、新人育成等の課題が残りました。

社会福祉法人 泰斗 令和元年度 事業報告

「全体」

施設長 魚谷康洋

社会福祉法人泰斗の初めての事業であるくぬぎ荘は令和2年3月でちょうど2年半を迎えた。入居者については、昨年度より入院者及び退居者数が少なく、平成30年度に比べ入居者の健康面で落ち着いた1年であった。平成30年度は待機者が少ない状況であるにも関わらず、退居者が10名おり、入居申込から入居までの期間がほとんどなく次から次に入居者を受け入れる状況で、待機者がいない時期もあった。令和元年度は退居者5名と少なく、入居申込も増えてきており、待機者も徐々に増えた。

令和元年度の看取り介護は1名であったが、これまでの看取り介護の経験を活かし入居者本人及びご家族の希望を尊重したケアを行った。入居者本人の認知症が軽度であり、意思表示をしっかりと行える状態であったため、本人が食事摂取や輸血を拒否があり、その気持ちを尊重した看取り介護であった。家族は本人の気持ちを重視したいとの気持ちは固いものがあったが、それでも一日でも長く生きてほしいという気持ちとの間で悩まれていた。毎日面会に来られていたため、日々のコミュニケーションを通して心理的な負担を軽減できるように努力し、穏やかな最期を迎えることができた。

職員については介護職員11名中(パート含む)のうち国家資格である介護福祉士を有していない者は1名。残りは全員有資格者。介護職員の経験年数では5年未満の者はおらず、5年以上10年未満8名、10年以上が3名と他施設に比べ、有資格者数と平均経験年数は高い。

定員29名中、25名まで入居者を伸ばすことができた。あと4名で満床であるが、その為には7時00分から22時00分まで曜日関係なく勤務できる介護職員があと数名必要で、そこまでの人員が確保できなかった。

日々の介護業務を遂行する為に、週40時間労働では職員不在の時間帯が生じた時期は、残業もしくはシフト時間より早く出勤し、業務にあたる等の超過勤務でしのいだ。令和元年度の超過勤務合計は440時間(平成30年度631時間)、月平均36.7時間(平成30年度52.6時間)昨年度より超過勤務は減少した。最高は平成31年4月の97時間30分。最低は7月の1時間。人件費は総支出の55%と他法人に比べるとかなり低い数字となった。

人員不足を理由に休日出勤するまでには至らず、正職員全員公休数110日は確実に消化できた。又、4月より始まった有給休暇の5日間の消化義務についても100%達成できた。しかし、食事、入浴、排せつといった三大身体介護をこなすのが精一杯の状況で、外出行事や施設内のイベント開催については、不十分な点があり、入居者の余暇の充実に繋がる試みを実践するまでは至らず、地域の行事等への参加も出来ず、次年度への課題が残った。